

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04255

研究課題名(和文) 対面授業が入ったブレンド型授業における「書き込み」と「成績評価」の総合的な分析

研究課題名(英文) Comprehensive analysis of blended learning in students' BBS comments and grade

研究代表者

保崎 則雄 (Hozaki, Norio)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：70221562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究代表者が担当する授業科目「プレゼンテーションの基礎知識と技術」でブレンド型授業を実施し、分析した。オンラインの書き込みと対面でのコミュニケーションの関係には因果関係が観察される部分と、個別に習得されているという部分が認められた。オンラインディスカッションの得意な面は、必ずしもSNSでの経験が生かされている訳でもなかった。また、書き込みの展開は、2回、3回がリニアに続くものが多く、一方で、2回目の書き込みの重要性が認められた。

研究成果の概要(英文)：The present study intended to clarify the process of online communication/discussion on BBS in the blended class, Presentation Basics, with five on-demand classes followed by one face-to-face class session. On BBS discussion, the most frequent kind of postings was linear 2-3 writing chain as was anticipated. One main reason for the chain of postings to end was caused by consolidating and concluding comments. On the other hand, for a writing chain to continue was because of raising questions and expanding topics through personal experiences. Quite interestingly, the second writing followed by the first writing after seeing the class video was found significantly important when considered the continuity and expansion of the discussion.

研究分野：教育コミュニケーション

キーワード：ブレンド型授業 オンデマンド授業 対面授業 書き込み BBS オンライン・ディスカッション

1. 研究開始当初の背景

オンラインでの教育、学習が増加している中、学びがオンラインで完結するような方法が最良、最善であるのかという疑問があった。学習の効果という点からも、知識伝達のようなものでは適しているであろうが、活動のようなものを通して学びを進めるといった観点からは、オンラインでの学びの完結性については疑問が呈されていた。

他方、学校教育では、伝統的な授業形態として、対面での授業形態がまだまだ主流を占めていて、それぞれが工夫を凝らして実施されている。

その両方を効果的に取り入れた授業形式にブレンド型の授業がある。一般にブレンド型の授業では、オンデマンド授業と対面授業が組み合わされて学習効果を上げるようなシステムになっている。ブレンド型の授業の学習効果とはどのようなものなのか。オンデマンド授業で成績のよい学生、対面授業で発言が減少する学生の学びへの参加というのは BBS の書き込みからどのように分析されるのか、ということはまだまだ未開拓の領域である。大学生のほとんどがデジタルネイティブとなっている現在、ブレンド型の授業でどのような学びを進めていくのかということが喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、オンデマンド型授業と対面授業を組み合わせたブレンド型授業の評価をするものである。具体的には、プレゼンテーションの授業において、受講生のオンデマンド授業視聴後の BBS への書き込みを基に、その発言の流れ、展開、収束、終了などという流れの存在と理由を分析する。また、対面授業でのアンケート調査、授業終了直後の授業の評価に成績との関連も調べて、総合的な分析をし、ブレンド型授業の学習効果について考察をする。

3. 研究の方法

(1) 参加者 2017 年度授業受講学生 (100 名) 対面授業参加学生数 (68 名)
1 年生 6 名 (男 4 名、女 2 名)
2 年生 38 名 (男 16 名、女 11 名)
3 年生 23 名 (男 12 名、女 11 名)
4 年生以上 28 名 (男 19 名、女 9 名)
高校生 5 名 (男 5 名)

(2) 実施期間

2017 年 4 月～7 月

(3) 授業形態

オンデマンド授業を 5 回＋対面授業を 1 回

(4) 分析データ

毎回の授業ビデオ視聴後に BBS に書き込んだコメントと授業アンケート

(5) 分析方法

BBS の書き込みの構造を分析した。

4. 研究成果

計 6 回の授業において、BBS の書き込み総数は 890 (教員が 229) であった。以下、1 回目のオンデマンド授業での書き込みから明らかになったいくつかの点について抜粋して紹介する。

パターン 1

1 回の書き込みで終結する。理由は断言的な言い切りの文章であったり、拡散する表現、内容ではない書き込みであることが多かった。

パターン 2

1 回目の書き込みにコメントをつける、フォローするというケースである。ここで終結するのは、主に最初の問いかけに解答するというような形で、そこで疑問が解け、解決してしまうというものであった。

パターン 3

このパターンもパターン 2 と同様で 3 番目の書き込みが収束するような内容であったり、結論を提示するようなものであるときに起きていた。

パターン 4

4 つ続くコメントには正統的な議論ができていくケースであった。

パターン 5

書き込みが 8 つ 9 つになるパターン。書き込みが「自分自身の経験」から始まると、他の人の「観察」が続き、その後「発見」「考察」「同調」「共感」といった情緒豊かな展開へと進展し、「例示」「提案」「問題提起」のように展開し、他の人のコメントを引き出しやすいような内容、書き方が存在することが明らかになった。

要約すると、

- ①長い書き込みは途切れやすい。
- ②問いかけ、疑問、投げかけのコメントにはフォローが付きやすい。
- ③2 番目のコメントが重要 (スレッドの展開、終了) 担当教員、TA の出番である。
- ④スレッドのタイトルのつけ方も重要である。

また、授業終了後の「授業に関するアンケート」の回答を因子分析で調べたところ、3 つの因子

- 1) ブレンド型授業の満足度
- 2) 授業内容への満足度
- 3) オンデマンドでの書き込みへの満足度が抽出された。それぞれの因子間相関は、.676 (1) と 2) .675 (2) と 3) .584 (1) と 3) であった。

これらのデータから、ブレンド型授業への参加度、満足度についてはほぼ明らかになった。担当教員がそれにある程度影響を与えたことも明らかになり、それが書き込

みの2番目のコメントにつながる評価であったと推測される。

今後は、継続して同種の授業を行い、書き込みの展開について言語的な分析を加えることが考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

鈴木広子 菅原安彦 保崎則雄
2016 オンライン・ディスカッションを通じた学生間のインタラクティブと英語の変化
東海大学教育開発研究センター 研究紀要
第24号 (査読有)

飯野一彦 鈴木広子 藤枝美穂 菅原安彦
松浦浩子 宮本節子 小原平 保崎則雄
2016 TED を利用したディスカッション・ボードの構築と実践 -他大学との交流を中心に-
国立群馬工業高等専門学校紀要 pp.45-63 (査読なし)

保崎則雄 2016、大学研究室が実践する小規模での米国短期海外研修の活動に参加した学生の自己評価、気づき、学びの分析、
総合学術学会誌、第15号、45-50 (査読有)

[学会発表] (計 8件)

保崎則雄 藤城晴佳 2018 「対話」重視のリフレクシオン活動が制作・表現型授業における学びに与える影響の分析 第24回大学教育研究フォーラム

保崎則雄、高木博貴、藤城晴佳、垣塚菜生、関根ハンナ 2017年11月25日「オンデマンド式授業と対面授業をブレンドした『プレゼンテーション基礎』授業の実施と評価と課題」第43回全日本教育工学研究協議会全国大会 (和歌山) C-2-3

藤枝美穂 宮本節子 鈴木広子 菅原安彦
小原平 保崎則雄 松浦浩子 飯野一彦
(2017)「TEDを利用した英語によるオンラインディスカッション交流:学生アンケートの分析」第23回大学教育研究フォーラム

藤城晴佳 保崎則雄 (2017)「映像制作授業内でのリフレクシオンに注目した peer learning において他者の言動を通して再認識される自己の創造」第23回大学教育研究フォーラム

Takeda, N. & Hozaki, N. (2016) Comparative Analysis of Willingness To Communicate (WTC) Perspectives on Face to Face (FTF) and Social Networking Service (SNS). Paper presented at the 14th International Conference for Media in Education in Soul, Kyoto p.41

寺田恵理、保崎則雄 (2016) An Analysis of 100-word Essays through Dialogue: Embedding Writing into Students' Everyday Lives 外国語教育メディア学会 (LET) 第56回全国研究大会 8月8-10日

山地弘起、谷美奈、三隅友子、保崎則雄 (2016) 「日本人大学生の対人関係文化からみたコミュニケーション教育の課題」第22回大学教育研究フォーラム 参加者企画セッション pp.71-72

保崎則雄、野田真理 (2016)「体演化活動 (Performed Culture Approach) を取り入れた言語教育の実践とその意義」第22回大学教育研究フォーラム 個人研究口頭発表 pp.3-4.)

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0件)

名称:
発明者:
権利者:

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

保崎則雄 (HOZAKI, Norio)

早稲田大学 人間科学部 教授

研究者番号：70221562

(2) 研究分担者

山地弘起 (YAMAJI, Hiroki)

大学イノベーションセンター 教授

研究者番号：10220369

(3) 研究分担者

鈴木広子 (SUZUKI, Hiroko)

東海大学 付置研究所 教授

研究者番号：50191789

(4) 研究協力者

()